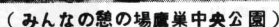


おしらせ欄

勇退の勸奨

[illegible]

中央公園の橋こわされる



野民の意の據として要された風集中央公園の名物赤い風青橋のランカンの一部がこわされた。

この橋は公園の中島を結ぶもので昭和三十二年三月総工費八〇万円で竣工したものであり破損された部分は四米ほどだが、この行為に町民みんながいかりを感じている。

お互い気を付けて二度とこ

③ 昭和三十年を一〇〇とした場合の指数であること。

④ %比率は三十七年との比較増です。

⑤ いろいろなことのないように協力下さい。

毎日の生活に直接ひびく
住民登録は忘れずに

住所を変えたら十四日

以内に届出が必要です

第三表 世 帶 員 (男女計)

	世帯員数	年令別世帯員数（雇人は除く）					住込みの雇人の数
		15才以下	16～19	20～29	30～59	60才以上	
3 反 未 満	1,284	469	70	161	500	82	2
3 ～ 5	1,677	625	78	196	628	148	2
5 ～ 10	3,631	1,274	213	538	1,267	331	8
10 ～ 15	3,566	1,220	237	473	1,258	378	
15 ～ 20	2,801	952	204	359	985	296	5
20 ～ 30	2,276	789	138	306	730	309	4
3 0 町以上	604	210	45	82	190	69	8
例外規定農家	8	3	1	1	3		
計	15,847	5,542	986	2,116	5,561	1,613	29

(注) 農家の人口の減少は戦後家族計画による出生減とこれに農村の特に青年
 壮の転出によるものです。

(註) 農家人口の減少は戦後家族計画による出生減とそれに農村の特に青年壯の転出によるものです。

		3 0 年		3 5 年		3 8 年	
		实 数	構成比	实 数	構成比	实 数	構成比
總	農 家 数	2,624	100%	2,791	100%	2,753	100%
専	業	612	23.2	572	20.4	255	9.2
兼	業 数	2,030	76.8	2,219	79.6	2,503	90.8
	總 農 業 主 数	1,416	53.6	1,383	49.6	1,231	44.6
業	兼 業	614	23.2	836	30.0	1,277	46.2

本町農家は最近専業農家より著しく兼業農家に移行した。即ち専業、兼業農家の構成割合は30年には専業23%、兼業77%を示していたが、37年は専業14%、兼業86%、今回の調では専業9.2%、兼業90.8%となった。

第6表満16才以上家族員の就業状況

注 1 自農農業や兼業にまったく従事しない人とは①病弱老令②学生③家事育事のみの人
④その他 2 兼業に従事する人とは①恒常的勤務②人夫日雇季節出かせぎ③自営業④内
職賃仕事などを云う。

	満16才以上の 家族員数	自家農業や兼業にまわった 従事しない人	兼業に従事する人	季節出かせ ぎ者数
3反未満	813	133	527	46
3～5反	1,050	182	622	59
5～10㍓	2,349	899	1,214	147
10～15㍓	2,346	457	1,015	165
15～20㍓	1,844	385	704	125
20～30㍓	1,483	325	434	63
30反以上	386	77	98	18
例外規定 農家	5		2	
計	10,276	1,958	4,616	623
	100%			

新出発売し、途中不案内からミスを重ねつつ70号を迎え

またしたこれからも常に前進する町の行政を記録しながら住民と町政の潤滑油として育てたい。

▽三月は風、四月は雨そして五月は花。五月は花ばかりあがった空に、コイのぼりが風をはらんでおよぐのが、すにすがすがしいものであります。この青空のとも、行動の絶好シーズンを迎えるものこのごろです。こんな

榮養がぜひ必要です。又この月は今日と昨日の気温の高低差が大きいので常に身体に気を付けて互いにハツクルしましょう。

以上で本町農家人口について述べたが、この結果数より見て、この一年間に三八・一四%減少し、率にして三八・一四%減である。農戸百分の変動は少ない割合に、農家の人口の減少は、戸当たり家族構成人口の減少に由来するものであり、戸割り平均三・五九人、昭和三十三年の二・八三人から今回五・八人と五人半に落ちた。(全国平均は三・五年当時も七・七) 農家減少率のもっと高い年合算は二十才台の青年層で男女と六・二%といふ若い減少率を示し、次いで六十才十九才層で男三・五止って年齢として雇われるもの、女五・二%とこれかなり高い減少率となつてゐる。

反面、老年層になると逆に増え、各年齢層において壮老年比重量が高まつてきより農村人口の老化傾向がみられる。

さらに、農家人口の中に住み込みの常雇を含めたいものが、この層には、年々減少してきており今回の調査では、わずか二十九人で七年には五六人で、四九・一人平均であつたのが一年後の現在では五五に一人となり、農村に予想以上に多いことと思つて、前紙に於て述べたように近頃、専業農家より急速に兼業農家に移行することが明らかでありすが、これは農家の季節労働かせぎ者数がなつたことがその一つとして出てきたことが出来たと見えてゐる。

農家人口(六十人以上の内)一〇、二七六人のうち就業状況より見て、六二・三の六・一%を示して、この季節労働かせぎ者数は年間就業を通して季節労働者が主となるので、その他の出かせぎ者数が多いことになり、農村に予想以上に多いことと思つて、前紙に於て述べたように近頃、専業農家より急速に兼業農家に移行することが明らかでありすが、これは農家の季節労働かせぎ者数がなつたことがその一つとして出てきたことが出来たと見えてゐる。